

桜蔭俳話会 九月句会(第三六八回)

平成三十年九月二十三日(日)

会場・旭区民文化センター(サンハート)

4点	立秋や思考回路の動き出す	明美	1点	秋出水災害受けし酒を貰う	眞壽
3点	裏切りし夫の墓前に萩手向け	眞壽	1点	秋風や操られては笑む傀儡	才美
2点①	爽やかや削り直せし桐箆筥	幸	※		
2点①	年寄りの時間稼ぎや大根蒔く	眞壽			
2点①	台風の大き目玉に籠城す	明美			
2点①	改憲の危ふき道や流れ星	守		金木犀香りの見えて曲がる路地	才美
2点①	一人居の快気祝ひや新豆腐	かほる		長き夜やストレス無けど眠気来ず	直子
2点①	いつまでも「戦後」がよろし八月尽	友子		流れ星近き火星や東空	直子
2点	二百十日一指のえぐる魚の腸	才美		初さんま旅の宿りの島料理	守
2点	入院日離れては寄る秋の蝶	才美		青柿に止まる鴉の吊り目かな	幸
2点	曼珠沙華卒寿の好きなサーロイン	才美		爽やかや赤子の泣きの不意に止む	ヤエ子
2点	傷つきし土もふる里新酒酌む	才美		いかに死ぬか学ぶ看取りや水の秋	友子
2点	ジェットコースターの上りは徐々に鱗雲	友子		一粒を含みて鳴らすマスカット	邦子
2点	隠れたる子らの声あり花芒	友子		黄落や黄の絨緞の燥ぐ子ら	ヤエ子
2点	ぼとり落つこれも人の世沙羅の花	幸		空の青行く雲に見る今日の秋	邦子
2点	屑金魚大きな命掬いけり	幸		空港の孤島となりぬ台風禍	友子
1点①	脆弱な都市の真ん中昼の虫	守		秋の宵ゴーヤチャンプルほろ苦し	直子
1点	この店はまた台替り秋の暮	眞壽		秋の虫去り来ぬ季節強く鳴き	邦子
1点	能面の裏の暗闇秋の声	才美		台風来エアポートの灯りけり	守
1点	こぼれ萩父の書棚の俳句帳	友子		爽やかに「じゃあね」と別かる山上駅	才美
1点	秋の灯の点らぬ大地地震来たる	友子		繕いのベストに一針夜の秋	幸
1点	爽やかや泥の球児の泣き笑ひ	友子		見渡せば芝に咲く花ねじり花	直子
1点	芋茎のあく染む指や夕餉膳	ヤエ子		骨無きがごとく柔らか赤子足	ヤエ子
1点	秋微雨看護の日記読み返す	かほる		モルヒネを打って迎へる病蝨	眞壽
1点	満月の潮位滑りし渡船かな	明美		年を経て誰れのあの世も爽やかに	直子
1点	海底の断層しづか秋気澄む	明美		約束の烏瓜来し即絵筆	ヤエ子
1点	引退の言葉爽やか野球帽	明美		初めての垂直避難秋出水	守
1点	横笛の色なき風となりて果つ	才美		爽涼やしばし止むる坂の上	かほる
1点	父作の神棚古し秋祭	かほる		爺婆が愛の巢作る彼岸花	眞壽
1点	虫鳴くや少年法の廃止論	明美		天地創造歌ひきる爽なり	かほる
1点	新調の背広爽やか出社する	眞壽		外に出てほほ触る風や今朝の秋	ヤエ子
1点	こほろぎの玄関出ず雨の夜	かほる		神鶏の餌を求め来る秋の暮	ヤエ子
1点	祝宴はうれしさ半分敬老日	友子		街路樹の大きなうねり二十十日	直子
1点	爽涼の髪を靡かせきかん坊	守		秋蝶の干からびてゆく速さかな	守
1点	秋夕焼横綱敗れ太鼓鳴る	直子		灯台の点滅間遠う星月夜	ヤエ子
				農の女ぞんがい無口曼珠沙華	才美

自づから散歩の歩幅猫じやらし 守
漆黒の闇の呪縛よ虫時雨 守
訓練の津波警報高きに登る 明美
掃苔の最後となるや爪黒し かほる
透きとほる泡盛白砂青い海 ヤエ子
秋の蚊の吸血意欲目覚めけり 友子
空っぽのツリーハウスや秋夕焼 守
はなし声行く人見えず野路の秋 邦子
(欠席投句 古野明美、平野邦子、京林真壽)

「事務局からお知らせ」

○第一三一回通信句会 作品募集

秋の季語を用いた三句。締切りは、十一月六日
(火)。同封の葉書でお送りください。

○十月句会

十月二十七日(土)、吟行します。詳細は、同封
のお知らせを御覧ください。

○十一月句会

十一月二十五日(日)午後一時から、旭区民文化
センター(サンハート)で行います。

○十二月句会

十二月二十三日(日)午後一時から、旭区民文化
センター(サンハート)で行います。